



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一四三号〜

小雪 しょうせつ  
一二月二日



## 干支の印香

おはらい町を歩いていると、芳しい香りが漂ってきます。お香の専門店「くつろぎや」の店頭大きな香炉からの香りです。「くつろぎや」オリジナルの五十鈴川「みず」で、五十鈴川の清らかさをイメージした爽やかな香りです。

新年を迎えるにあたり、おすすめの香りを尋ねてみると、「干支の印香いんこうはいかがでしょうか。毎年、楽しみにされている方がいらっしやいますよ」とおかみの松月潤子さんが年末年始限定のお香を教えてくださいました。印香とは聞きなれませんが、伽羅きゃらや白檀びやくだんなどの香木かうぼくや線香とともに、「薰物たぐもの」と呼ばれる伝統的なお香です。さまざまな香料を混ぜ合わせて型押しをし、乾燥させたもので、薄くて小さなお香です。毎年、一二月になると店頭で販売される干支の印香は、来年の干支の巳みを描いた小さな絵馬と松竹梅の形をしたお香が詰め合わせてあります。そのかわいらしいこと、友人へのちょっとした年末の贈り物に最適です。

「お香は生活必需品ではありませんが、暮らしに香りを加えると心にゆとりが生まれます。最初は贅沢ぜいたくに思うかもしれませんが、ワンランク上の暮らしになります」。

松月さんは、特に部屋を掃除した後にお香を焚たくいているといます。古くからお香に関する訓くんや効用を記した「香十徳かうじゅく」というものがあります。

そこには、忙しいときも和ませる、長い間保存していても朽ちない、孤独感を拭う、心身を清く浄化する、穢けがれを取り除くなどと書かれています。年末は大掃除をするだけでなく、好みのお香を焚たくいて、今年の穢けがれを払い、浄化して新年を迎えたいものです。

文 千種清美

